

論述ブースト No.4

データ読解論述

—— グラフ・表から何が言えるかを論証する

目標：医学部小論文・理系論述で頻出する「グラフ・統計表の読解→論証」技術を習得する。数値を「事実の列挙」で終わらせず、「傾向の指摘→解釈→政策的含意」の3ステップで論証文に昇華させる。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入の問い：「グラフを見て何がわかりますか？」→「増えています」で終わる生徒が多い。それは「事実」であって「論証」ではない。

核心：グラフ読解の3ステップ：傾向指摘 → 解釈 → 含意（政策・行動への示唆）

採点者の視点

採点者はここを見ている —— データ読解論述・グラフ・表で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

データ読解論述・グラフ・表では、データから論証への根拠が答案の質を大きく左右します。

② データ読解論述・グラフ・表で採点者が見ているポイント

「グラフから読める事実と、そこから言える主張を区別した答案」が採点者に「データを正確に読んでいる」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所